

湖北広域行政事務センター

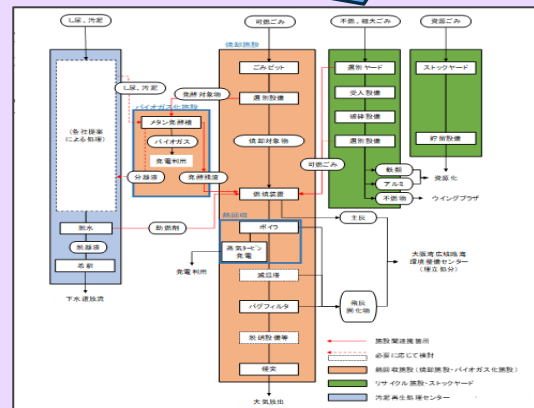
新一般廃棄物処理施設整備運営事業

基本設計（設計・建設編 4）

7. 処理システム

処理システムは、各施設（熱回収施設、リサイクル施設、污泥再生処理センター）を連携し、建設後の運用面、経済性等を考慮した提案を求めるとともに、污泥再生処理センターでは、資源化（助燃剤化）を図り廃棄物を利用し、次の世代につながる利活用を考慮したエネルギーの地産地消を図る、総合的な廃棄物処理システムとします。

処理システム（参考）



8. 設計・建設に関する考え方

【有機的な連携を持った処理システムの目標】

各施設を同一敷地に一括整備することで、施設間の有機的な連携を持った総合的な廃棄物処理システムを構築し、効率化、コスト削減等を図ります。

【メーカーへの技術調査】

令和2年度に焼却炉メーカーに対して行なった技術調査では、ランニングコストの検討も含めた施設間で廃棄物を連携して処理する各メーカー独自の技術提案を得ることが可能であると検証できました。

【施設整備の方針】

技術調査と同様に処理する必要があるごみ量等のみを提示し、民間事業者に独自の廃棄物処理システム、処理規模および維持管理運営の方法を提案させ更なる効率化、コスト削減等を図ることを方針とします。

■施設規模

【基本計画で算定した施設規模】

- ・熱回収施設（焼却施設） : 145 t/日 (72.5 t/日×2炉)
- （バイオガス化施設） : 50 t/日
- ・リサイクル施設 : 22 t/日 (ストックヤード: 1, 134 t/年)
- ・污泥再生処理センター : 49KL/日

【令和2年度の新人ロビジョンで算定した施設規模】

- ・熱回収施設（焼却施設） : 143 t/日 (71.5 t/日×2炉)
- （バイオガス化施設） : 50 t/日
- ・リサイクル施設 : 21 t/日 (ストックヤード: 1, 112 t/年)
- ・污泥再生処理センター : 49KL/日

※施設規模は、一極集中による整備において施設間で連携した総合的なシステム構築を図る事により、各施設規模の縮減を目指すため、今後変更となる可能性があります。